

「おにぎり」  
「中華料理」  
「カスタネット」  
「ポップコーン」



須田 雅美

北條ダンススクール勤務

早速ですが、クイズです。これら4つのキーワードを分類して下さい。また、私のダンスに関係のある物はどれでしょう？

実は食べ物とそうでない物とに分類されるものではありません。キーワードの前半2つは青柳先生にご馳走になった物です。夕方にスクールに伺うと、キッチンに「おにぎり」が置いてありました。「慢性金欠乏症」の学生にとって、まさに踊る為のエネルギー源でした。

競技会が名古屋で開催された時には反省会として、スクールの近くで「中華料理」をご馳走になりました。楽しくお腹が満たされるだけでなく、貴重なお話を伺って、頭の中にも栄養を受けているようでした。

次に後半の2つは、青柳先生のレッスンでとても印象に残っている言葉です。その当時、大学生の競技会にはパソドブレとジャイブが公式種目として入っていませんでした。しかし私は幸いにも元中部ラテンチャンピオンである青柳先生から手ほどきを受ける事ができたのです。パソは闘牛をイメージしたステップが入ったダンスですが、「フラメンコダンサーが『カスタネット』を奏でながら踊るように、指先まで表現しなさい。」とご指導を受け、軽快なアメリカンリズムのジャイブでは「『ポップコーン』がフライパンの上でポンポンとはじけているように、軽やかに踊りなさい。」と、その種目のイメージを単純明快に教えて下さいました。

…ということで、「私のダンスに関係のある物は？」の答えは「全て」でした。これら4つは、「私のダンス人生のベビーフードみたいなもの」なのです。

全日本学生チャンピオン、その後プロフェッショナルとして全日本チャンピオンにまでなれたのは、ハイヒールでよちよち歩いていた頃に、青柳先生がベビーフードをしっかりと与えて下さったおかげと感謝しております。競技会場でお会いするといつも、「お〜う」とがっちり手を握って握手をして下さいます。実は私、その度に先生に教えて頂いたダンスの要「コネクション」を思い出し、心をキュッと引き締め直してダンスと向かい合っているのです。

青柳先生と私達



白石 智樹・香織

中川ダンススクール勤務

青柳先生の50年にも渡る踏歴の中のほんの3年間という短い間ではありましたが、当時の私達にとっては未知の世界であるダンス教室がどのような所で、プロの先生のレッスンがどのようなものなのかという事に初めて触れさせて頂き、学ばせて頂いたのがアオヤギダンススクールでした。

そんな短い間にも私達にたくさんの思い出を下さり、濃く充実した学生ダンス生活を送らせて頂き、本当に感謝しております。

先生御夫妻とのエピソードを挙げればきりがありませんが、少しだけ御紹介させて下さい。

当時、毎週のようにある競技会の役員として、時には審査員としてお忙しくされお疲れのはずの所を、名古屋大会の時には20人以上もいた教室の選手の為に、必ず教室近くのレストランで打ち上げをして頂き、ご馳走になっておりました。貧乏学生の私達にとっては競技会よりも重要なことでした。又、年末の大掃除の後には銭湯に行き1年の汗を落とし、その後ご自宅にまで招いて頂き、大勢いるにも関わらず夜中まで飲んで食べて…。今ある体は、その時たくさんご馳走になったものが血となり肉となって、今では決勝まで踊り切れるのだと思います。

そして、青柳先生のお人柄が強烈に私達の心に刻まれた一件は、私達が初めてアマチュア中部選手権の決勝に残ってしまった時に、幸雄先生が人でいっぱい名古屋公会堂の、出番を控えていた私達を捜して走って飛んできて、踊ったことのない5種目目のウィナーワルツ、控えの廊下で急遽指導して頂いたことです。そしておかげ様で中部チャンピオンとなり、日本インターナショナルでの日本武道館でも初めて準決勝に残り、嬉しい反面、もし決勝に呼ばれたら与えられた規定フィガーを踊らなくてはならず、不安にしていると、あの広い日本武道館の中をどうやって捜してこられたのか、私達の所にすっ飛んで来てその規定フィガーをやはり控えの廊下で急遽教えて頂いたのです。あの時の幸雄先生の機転の効いた行動力と、選手の面倒をみる心のあたたかさは私達が武道館で踊る度に熱いものと一緒にこみあげてきます。

こうして、ダンスの先生というものはどういう存在であるべきかを身をもって教えて頂き、そういった人との関わりを持てる仕事って素敵だなと心のどこかにインプットされたのが青柳先生御夫妻でした。そして、先生方のダンスに対する姿勢は、今も私達のダンスに関わる全ての礎となっています。